

企業と学生をダイレクトにつなぎ
企業の課題に
卒業研究でチャレンジする

ISDC プログラム

Industry-Student Direct Collaboration Program

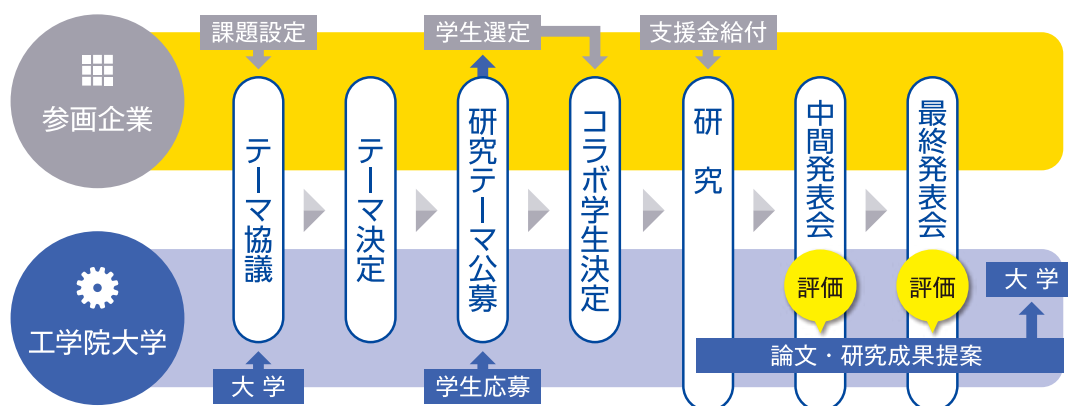


学生と企業との「直接的(ダイレクト)」な「連携(コラボレーション)」を実現し、
企業に向けて、既成概念にとらわれない学生の柔軟で斬新な発想を提案

「ISDCプログラム」とは

最大の特徴は、これまではなかった学生と企業との「直接的（ダイレクト）」な「連携（コラボレーション）」を実現した企業とのコラボプログラムという点

Industry-Student Direct Collaboration Program



プログラムのポイント

1. これまでになかった“学生”と“企業”間のダイレクトな連携
2. 論文や研究提案をプレゼンテーションし、大学に加え企業も評価に参加
3. 日本を代表する流通業、総合建設業の大手企業が参画（2025年1月現在）

創設の趣旨

- 企業に向けて、既成概念にとらわれない学生柔軟で斬新な発想を提案
- 在学中に、企業が実際に抱える課題の解決に向けた研究を体験
- より明確かつ具体的な課題への取り組みによる大学教育のさらなる活性化
- グローバルに活躍できる人材の育成

2013年度からスタートした本学独自の留学プログラムである「ハイブリッド留学®」の推進により、学生が海外で学ぶ機会が拡大。
異文化と接して養われたグローバル感覚や、海外生活で身に着けた主体性・問題解決能力を論文や研究提案などに発揮できる学生が増えていくことも期待。
また、日ごろの研究室では体験できない「リアルな世界」を肌で感じ、研究活動の原動力として欲しい。

コラボ学生の選考方法

※時期は予定です。

6月上旬※ | 募集要項・参画企業から研究テーマの提示

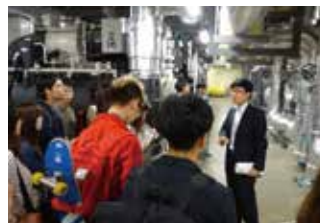
6月下旬※ | 応募締切:研究計画書提出

7月※ | 企業と大学で研究計画書を精査

7月下旬※ | 結果通知・コラボ学生決定

株式会社セブン&アイ・クリエイトリンク

セブン&アイ・ホールディングスの総合ディベロッパー会社で「商業施設開発」「テナントリーシング」「運営管理」の3事業を柱に、セブン & アイのグループ力を活用した質の高い商業施設の開発に取り組む。



参画企業の協力
による現場見学

株式会社フジタ

国内準大手の総合建設会社（ゼネコン）で、100年以上にわたり積み上げた高い技術力と提案力で、都市再生事業から海外進出まで、顧客に新しい価値を提供する。「海外事業」「都市再生」「環境」「大和ハウスグループの総合力」を強みに持つ。



参画企業社員による
企業紹介と研究のための
事前講義

参画企業からの主な課題例・採択テーマ

株式会社セブン&アイ・クリエイトリンク

主な課題

- 大型商業施設における高齢者のウォーカビリティ向上の可能性
- 新しい人の流れを作るショッピングセンター
- ショッピングセンターにおける子供の居方、過ごし方に関する研究
- 未来商業施設(集客施設)に関連する研究

株式会社フジタ

研究テーマに制限なし

- 採択されたテーマ
「アマルフィ海外地域における山岳部に注目した景観と建築空間の研究とその展望」
「アフターコロナにおけるタクティカルアーバニズムの実証実験およびシステムの提案ー工学院大学公開空地を対象地域としてー」
「保存から継承へー関係性の構造を引き継ぐ通時的な研究ー」
「民家における生産空間を対象とした機能と建築形態の関係性について」

企業からも評価を受ける論文・設計提案

- 研究計画書が採択された学生は、企業からのコラボ支援金を有効活用して研究を進め、論文や研究課題として学部・研究科に提出。卒業論文・修士論文として取り組むことも可能。
- 最終発表会の場でプレゼンテーションし、評価を受ける。
参画企業の経営陣や研究テーマに関連した部署のリーダーなども出席する最終発表会の場でプレゼンテーションし、評価を受ける。

中間発表会・最終発表会の様子

- 中間発表会：11月頃
- 最終発表会：2月下旬～3月上旬





企業と学生のメリットと社会的効果



企業側

- 社会貢献活動の一環としての大学教育支援。
- これまでとは全く別の角度からの、学生ならではの、柔軟で斬新な視点や発想を知ることができ、新しい視点での問題解決のヒントとなる。



学生側

- 研究に伴う経済的負担の軽減。
【コラボ支援金※】 金額：1テーマあたり10万円(中間発表会后、最終発表会后に各5万円)
使途：専門書や模型材料の購入、現地調査の費用等
※今後変更になる可能性があります。
- 自身の専門分野と実社会との関係を意識し、リアルな社会・現場を肌で感じることができる。
(参画企業トップや研究テーマに関連した部署のリーダー達との意見交換や職場見学などを通して、自らが目指すべき方向を再認識することができる。)
- 中間発表会、最終発表会には参画企業の幹部が出席し、講評や評価を実施するため、学生自らの発想を、日本を代表する企業幹部に直接プレゼンすることができ学生の大きな自信につながる。



社会的効果

- 実社会で「働く」という事をリアルにイメージさせ、これを学生時代に研究を通して体験させることにより、就業のミスマッチを未然に防ぎ、若者の早期離職問題の大きな解決策となる。



参加学生の声

こちらをチェック

<https://www.kogakuin.ac.jp/research/collaboration/isdc.html>



工学院大学は、これからも本学のDNAである

『First One』・『Only One』にこだわり続けた取り組みを展開していきます。

Globalization, It is not a Desire, It is a Requirement.